

はしょうふう

破傷風

について

「破傷風」とは創口などから侵入・増殖した破傷風菌によって重篤な症状を引き起こす感染症です。破傷風菌は土壌中などに広くに存在し、日常のいつでもどこでも感染の機会があります。

破傷風、ここが怖い

- ・眼に見えない、小さな傷でも破傷風の原因になりうる。
→傷を見て破傷風になりやすいか、なりにくいかの正しい区別は難しい。
- ・清潔なはずの環境でできた傷でも破傷風にかかることがある。
- ・急激な神経・呼吸・循環器系の変化が起こるため医療の整った先進国でも**致命率は高い**。

世界では
30~40%!!

【第1期】



- ・受傷部位のつっぱり感。
- ・口を開ける時の抵抗感(開口障害)。

【第2期】



- ・開口障害の進行。飲み込み(嚥下)の困難。
- ・顔の筋肉がかたくなり、ひきつった症状になる。
- ・全身の筋肉が緊張し歩けなくなる。

【第4期】



- ・回復できた場合、痙攣などの重い症状は消失。
- ・筋力低下や、筋肉の緊張・硬直が残り、長期的なリハビリが必要。

【第3期】



- ・小さな物音や少しの光刺激でも繰り返し痙攣が出現する(痛みを伴い、体がうしろにのけぞるような姿勢)。
- ・呼吸困難(人工呼吸器管理となる場合も)。
- ・排尿・排便困難(自分ではコントロールできない)。

予防接種について



小児期の定期予防接種が完了している場合、最終接種から 10 年毎に追加接種を行う。小児期の定期予防接種を受けた回数が規定回数以下の場合、医師の指示のもと不足分の予防接種を行った後、10 年毎に追加予防接種を行う。

ワクチンを打ったほうが良い人

- ・いつ破傷風ワクチンを最後に接種したか分からない人。
- ・ワクチンを接種したことが無い人。
- ・ワクチンの最終接種から 10 年以上経過している人。
- ・転倒(による外傷)の危険が高い人。
- ・土壌汚染された場所で怪我をする危険が高い人(自然や動物との接触が多い等)。
- ・海外渡航者(海外には衛生環境や道路の塗装、医療体制が十分で無い国も多い)。



ケアのポイント

～ワクチン接種を受けておくことが一番の予防～



- ・怪我をしないように注意する。土壌や動物、釘や鉄さび等に触れる作業の際は手袋を使用する。
- ・怪我をしたら傷口をすぐに清潔な水で十分に洗浄する(日本の場合は水道水で良い)。
- ・ワクチンによる確実な免疫が無い人が破傷風が心配される外傷を負った場合、速やかに医療機関を受診し創そのものの適切な処置を行う。
- ・感染が疑われる時は、速やかに呼吸器や感染症専門医のいる高度医療機関を受診する。
- ・痙攣が出現したら迷わず救急車を呼ぶ。